進路だより

令和５年度　**第３号**
令和５年１０月３０日（月）
都立羽村特別支援学校長
外山　裕介
進路指導部

障害者雇用による就職と離職

【障害者雇用】・・国は障害のある方がその適正や能力に応じて賃金を得ながら生活できるよう一定の従業員数の企業や公的機関に「障害者雇用」を義務づけています。

	R5	R6	R8～
雇用率	2.3%	2.5%	2.7%

今後段階的に障害者雇用率が上昇

昨年度の卒業生５６名のうち、卒業時点での障害者雇用による就職者は１９名でした。就職から半年が過ぎたこの１０月１日時点で、１９名すべてが就職した会社にて継続しています。ただ、１年、２年・・と過ぎると離職する卒業生もいます。

	卒業時就職者数	令和５年１０月時点での就職継続者数
卒後２年目の卒業生	２７名	２２名
卒後３年目の卒業生	３３名	２４名

数字の見方
良くない辞め方だけではありません。転居や「やりたいことが見つかった」などもあります。

就職して１年半、就職して２年半の間に、様々な理由で離職するケースがあります。その多くが「人間関係やコミュニケーション」を理由とした離職です。

知的障害の程度としては軽度ですが、自発的な関わり（教えてください・お願いします）が苦手な場合に、声をかけてもらうのを待つという状況がよくあります。いわゆる「支援待ち」です。高校生の時の実習では、自分から聞くことができていたとしても、就職後に一緒に働く人は変わっていくこともあります。こうした時に、親や学校の先生や障害者就労支援センターの方に相談したりできると、会社への支援アプローチによって、本人が少し努力してみようと上向きに行く場合もありますが、相談が難しい場合には「ここ１週間くらい連絡なしの無断欠勤が続いて・・」と会社から学校や障害者就労支援センターへ連絡が入ります。障害者雇用によって、障害の状況に応じた配慮は当然行われますが、無断で休み始めると難しい場合が多いです。

また、学校の進路担当や就労支援センターの担当者と相談して「退職する」となった場合も「辞め方」が重要です。誰しもが人生のいろんな場面で「辞める」ということはあります。ですが、その区切りのつけ方として「退職する１か月前に退職を上司へ伝える」「最終勤務日に感謝の言葉を述べる」といった、次につながる辞め方もまだ若いからこそ大切となります。

今年の３年生もこの１０月以降に就職（内定）が決まっていきます。ただ卒業後の進路が決まっても、学ぶ必要性は働いてからもあります。働き続ける意義を見出し続けることと同じくらいに、自分自身で解決できないと感じた時に相談ができるかどうかが最も大切です。

高等部１年生　職場見学

高等部１年生は１０月２０日（金）の午前に７コースに分かれて見学会を実施いたしました。これから、インターンシップで一人一人の体験実習を行う前にちょっと緊張感を味わいに、また働く先輩（卒業生など）の仕事ぶりに触れることで「働く」「利用する」ことに意識をもてるといいなという思いです。見学では、先輩達が活躍する姿に刺激を受け、中には、先輩自ら自作のスライドを活用して説明してくださったグループもあり、皆、真剣な表情で見学先の方のお話を聞いていました。

【見学先】

①１組２組グループ・・・五乃神学園（生活介護）
②　　Ａ１グループ・・・いいあさファーム（Ｂ型・生活介護）
③　　Ａ２グループ・・・青梅福祉作業所（Ｂ型）
④　　Ｂ１グループ・・・サムライプリント（Ｂ型）
⑤　　Ｂ２グループ・・・（株）サプリメントジャパン
⑥　　Ｃ１グループ・・・コニカミノルタウイズユー（株）
⑦　　Ｃ２グループ・・・富士電機フロンティア（株）

富士電機フロンティアにて

高等部２年生　ビジネスマナー講座

１０月１０日（火）株式会社パソナハートフル様から講師をお招きし、企業就労にチャレンジする生徒を対象としたビジネスマナー講座を行いました。５名の講師の中の１名は、本校を御卒業後、株式会社パソナハートフル様に御就職され、現在も御活躍されている先輩の方でした。講座の内容は、挨拶・身だしなみといった基本的なビジネスマナーのほかに、実習や普段の生活等で起こりうる場面を想定したロールプレイング（報告・連絡・相談のポイント、クッション言葉の使い方）など実践的なテクニックを教えていただきました。生徒たちは、普段とは違う雰囲気に緊張しながらも意欲的に活動に参加していました。

マナーとは相手に対する思いやりです。常日頃から、周囲の人から愛され、一緒に働きたいと思われる人を意識して行動できると良いですね。

中学部3年生　職場見学

今年も中３は羽村市内のひばり園（就労継続Ｂ型）へ、７月６日(木)と 13 日(木)の２回見学に行きました。職業家庭で事前学習をして、見学でそれぞれ作業体験をしました。仕事はゴミ収集袋の折りたたみ、部品の袋へのシール貼り、紙箱の組み立て、自動車の部品のベアリングの組み立てでした。初めての作業でしたが、みな集中して取り組めました。中には「すぐにでも作業所で働けるね」とほめられた生徒もいました。作業の後は、本校の高等部を卒業した先輩と、作業所の生活について質疑応答がありました。事前に聞きたいことを学習していたので、積極的に手を上げて、先輩からいろいろ作業所の生活のことを聞きました。学校に戻り、まとめとお礼状書きをしました。お礼状の方はひばり園にお送りしました。初めての職場体験でしたが、高等部に向けてよい体験ができたと思います。またひばり園の皆様には、２回の見学を快く受けていただいて、当日も丁寧に対応していただき、感謝いたします。ありがとうございました。

大切なチルスキル

今、若者の言葉で「チルする」「チルい」などとよく使われているようですが、語源は英語の「chill out」・・・まったりくつろぐという意味です。ゆったり豆から挽いたコーヒーを飲んだりするイメージでしょうか。

この「ゆったり」「リラックス」が真に必要な時はどんな時でしょうか。きっと真逆な状態の時ですよね。次のような時に人は社会的に良くない行動を取る場合が多いようです。

- 緊張でガチガチな時
- 怖さに襲われている時
- 悪い行動や言動をしてしまいそうな時

そんな時にその場でできることや家に帰ってできることなどのいくつかの自分だけのチルスキルがあると社会的に良くない行動をしてしまいそうな時に自分の意思で制御できる場合があります。私たち大人にとっても大切にしたいものです。

【その場でできるチル】
※ストレスのある場からは離れて
- 深呼吸
- 手をグーにして強くにぎり、一気に力を抜く（筋弛緩法）

【家に帰ってできるチル】
※ストレスのある場からは離れて
- リラックスできる音楽、飲み物
- アロマ
- できごとを家族に話す

今年度の各地域会での様子から

今年度はPTA組織の「地域部」の皆さんのご尽力もあって、各地域会が順次行われています。私たちも進路指導部の教員として、どんな地域会になると良いかを地域部の皆さんと年度当初に一緒に考えました。話し合った結果は以下のとおりです。

① 無理をしない　② 役割を押し付け合わない　③準備に時間と手間をかけない
④ 自然に聞いたり、話したりができる

といったことを大切にできたらいいですねと始まりました。

初回の東大和市の地域会、その次の立川・武蔵村山市、青梅市の地域会には、進路指導部の教員も参加させていただきました。とっても楽しく参加させていただきました。保護者の皆さんが自由に聞いて、自由に話せる様子が３つの地域会にありました。やはり、「やらねばならぬ」「役割だから」といったことから少し解放されると、運営する人も参加する人も同じように障害のある子の親としてつながりを意識したり、下の年齢の親御さんに対する先輩の保護者の方は、これまでの経験を伝えたりされる姿がとっても自然でした。これからの地域会も親同士の心がつながる素敵な会になるといいですね。

将来の障害福祉の担い手に(？)

６月に行いました羽村セミナー（保護者学習会）でも、地域の障害福祉サービスの働き手について取り上げましたが、恒常的に働き手不足があります。最近も、新たな事業所を立ち上げようとされる方のお話を聞く機会もありましたが、やはり人材確保の困難さから開所予定を延期されるというお話でした。

一方で近頃、大きな社会福祉法人でも障害者虐待事案が発生したというニュース報道を聞く機会も多いです。大きな法人とはいえ、人材確保と職員育成の歯車が合わない様子が受け取れます。

こうした中、羽村市の中学校では将来の働く意欲を中学生にもってもらおうと、地域の企業や個人事業主のご協力のもと「職場体験」を行っています。知的障害固定学級の生徒さんだけではなく、通常学級の生徒たちも就労継続支援Ｂ型の事業所などで職場体験をしている様子を垣間見る機会がありました。中学２年生の生徒さんは、知的障害のある大人の人たちの中で、自分の役割を真剣に取り組んでいました。

こうした小さな体験ですが、将来「福祉の仕事を」と思う人が出てきてくれるといいなというＢ型事業所の職員の方々の温かい眼差しが印象的でした。

【次回】
１２／１４（木）発行予定
・高１インターンシップ
・高２現場実習
など